

進路意識の観点から大学教育を考えるための基礎研究

上 田 恵 津 子 (大阪大学)

学校教育は職業選択過程の規定要因の1つであるが、大学教育はその最終段階として位置づけられる。

しかし、その内容や実情は、学部・専攻分野の性格によって様々である。医学部をはじめ、理工系の学部は職業教育との関わりが強いのに対して、人文系の学部においては、大学教育と職業教育とは必ずしも結びつかない。教員養成系の教育学部は本来職業教育を目的とするものであったが、近年では、教員採用数の減少により卒業後の教員への道が保証されないことや、偏差値による大学選びが行われることにより、“教員養成”という目的と現実との間にずれが生じてきた。その結果、教員免許状の取得を卒業要件としない、いわゆるゼロ免課程を設置する教育学部も増えており、変革を求められている。

そこで、本研究では、学部・専攻分野の性格や教育内容が職業選択と直接には結びつかない人間科学部と外国語学部、ならびに教員養成課程とゼロ免課程が併設されている教育学部の学生を対象に、質問紙調査を行い、進路意識や職業意識、進路との関係からみた大学教育観などを探ることを試みた。職業との関係が明確になりにくい学部の学生と、変革を求められている教育学部の学生が、自分の進路や大学教育・大学生活についてどのような意識を持っているかを調べることによって、今後の大学教育のあり方を考えるための基礎資料を得ることが目的である。

方法

1. 調査対象者

大学教育を1年以上受けており、専門教育科目を受講した経験を有すること、および卒業後の進路がまだ確定していないこと、を条件にしたので、2年生と3年生が対象となった。

- 1) 大阪大学人間科学部 2年生・3年生 146名
- 2) 大阪外国語大学外国語学部(昼間主コース) 2年生・3年生 145名
- 3) 和歌山大学教育学部教員養成課程 2年生・3年生 125名
- 4) 和歌山大学教育学部文化社会課程・生産科学課程(B課程と総称) 2年生・3年生 57名

2. 調査実施時期

1996年11月～12月に、授業時間の一部を使用して実施した。

3. 調査内容の概要

藤田・大倉・植田・桶矢(1994)、梶田(1995, 1996)、文部省初等中等教育局(1989)、総務庁青少年対策本部(1993)、梅田・山本・米田・松浪(1990)、若林・後藤・鹿内(1983)の調査項目を参考にして、以下のような質問項目を作成した。職業意識に関する質問項目以外は、選択肢の中からあてはまるものを1つあるいは複数選ばせるという回答形式をとった。選択肢の詳細は、結果の表を参照されたい。

1) 大学進学に関する質問項目

- (1) 大学進学を決めた時期、その理由
- (2) 現在通っている大学・学部の志望順位、志望決定時期、志望理由、志望に際し卒業後の進路や将来の職業との関係を考慮したかどうか

2) 大学教育に関する質問項目

- (1) 入学前のイメージや期待との比較、および勉学に対する意欲、満足度、現在の大学・学部で勉強していくことについての希望

- (2) 授業への出席率、出席の目安、受講態度、科目選択基準、授業に対する感想
- (3) シラバスの活用のかた

3) 卒業後の進路設計・将来の職業に関する質問項目

- (1) 教員免許状の取得希望
- (2) 卒業後の進路希望、進路希望決定時期、進路希望に対する大学教育の影響、卒業後の進路との関係からみた大学教育観
- (3) 職業観
 - ① 将来の職業を決める時重視する事柄
 - ② 働く目的
- (4) 職業意識
 - ① 職業レディネス：若林他（1983）が作成した尺度で、職業選択への関心、職業興味の限定性、現実的な職業選択態度、主体的職業選択、自己知識の客観性の5つの下位概念を記述するものである。合計30項目について、「非常にあてはまる」から「全くあてはまらない」までの7点尺度で回答が求められた。
 - ② 職業志向：若林他（1983）が作成した尺度で、就職や職業選択において学生たちが志向すると思われる30項目の条件を選定し、将来つきたいと望んでいる職業には各条件がどの程度備わっている必要があるかを、「非常にたくさんあってほしい」から「普通以下でよい」までの5点尺度で評定するよう求められた。

4) 大学・学歴に対する考え方に関する質問項目

- (1) 大学卒業後の学習意欲
- (2) 社会で成功する要因、大学卒業者が評価される要素

5) 人生観に関する質問項目

- (1) 人の暮らし方
- (2) 充実感を感じる時
- (3) 悩みや心配ごと、その相談相手

結果と考察

学部・課程別に、各質問項目（職業意識は除く）の回答の度数分析を行い、有効パーセンテージを算出した結果を以下の表に示す。

1. 大学進学

1-1. 大学進学を決めた時期

大学に進学することを決めたのはいつごろかを、学年で回答させた結果は表1-1の通りである。

表1-1 大学進学を決めた時期

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
小学校入学以前	13.7	7.6	4.8	0.0
小学校				
1年生	3.4	0.7	0.8	1.8
2年生	3.4	0.7	1.6	1.8
3年生	2.7	2.1	3.2	7.0
4年生	7.5	2.1	7.2	3.5
5年生	7.5	10.3	5.6	8.8
6年生	8.2	4.8	1.6	3.5
学年不明	0.0	0.7	0.8	0.0
中学校				
1年生	11.6	15.2	12.8	15.8
2年生	8.9	8.3	11.2	10.5
3年生	10.3	19.3	14.4	22.8
学年不明	0.7	1.4	0.8	0.0
高等学校				
1年生	10.3	13.1	19.2	14.0
2年生	4.1	4.1	8.0	8.8
3年生	2.7	5.5	4.8	0.0
学年不明	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	4.8	4.1	3.2	1.8

学部・課程間で比較すると、大阪大学人間科学部が若干早く、半数近くの46.4%が小学校卒業までに大学進学を決めている。中学校卒業までに大学進学を決めた者は、大阪大学人間科学部で77.9%、大阪外国語大学で73.2%、和歌山大学教員養成課程で64.8%、和歌山大学B課程で75.5%となっており、7割前後が義務教育終了までに大学進学を決定していることになる。

1-2. 大学に進学しようと思った理由

大学に進学しようと思った理由について複数回答を求めた結果は、表1-2の通りである。

表1-2 大学に進学しようと思った理由（複数回答）

（％）

	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
教養を高めたいから	61.6	56.6	33.6	40.4
将来の仕事に役立つ専門知識・技術を身につけたいから	41.8	56.6	56.0	38.6
高校までよりもっと進んだ学問や研究をしたいから	44.5	29.7	13.6	19.3
資格を取得したいから	5.5	11.7	55.2	26.3
大学を出た方が就職に有利だと思うから	47.9	59.3	53.6	64.9
大学を出た方が就職後の昇進に有利だと思うから	12.3	12.4	12.8	15.8
先生がすすめるから	5.5	5.5	5.6	7.0
両親など家族の者や親戚の者がすすめるから	41.8	26.2	27.2	33.3
友人や先輩がすすめるから	4.1	2.1	1.6	1.8
良き友を得て、人間関係を豊かにしたいから	39.7	37.9	22.4	35.1
学生生活を楽しみたいから	67.1	68.3	60.8	75.4
高校卒で働きたくないから	32.2	33.1	35.2	45.6
みんなが行くから	34.9	26.9	28.0	31.6
特に理由はない	4.8	2.1	2.4	1.8
その他	15.1	9.0	4.8	0.0

各学部・課程とも、「教養を高めたいから」「将来の仕事に役立つ専門知識・技術を身につけたいから」「大学を出た方が就職に有利だと思うから」「学生生活を楽しみたいから」などの理由が多く選択されている。

学部・課程間で比較すると、大阪大学人間科学部では「教養を高めたいから」と「高校までよりもっと進んだ学問や研究をしたいから」が多く、大阪外国語大学では「教養を高めたいから」と「将来の仕事に役立つ専門知識・技術を身につけたいから」が多い。和歌山大学教員養成課程では「将来の仕事に役立つ専門知識・技術を身につけたいから」と「資格を取得したいから」が多いのが目立つ。

また、選択した理由の中で順位をつけるよう求めた結果をみると、第1位にあげられた度数が最も多いのは、大阪大学人間科学部で「高校までよりもっと進んだ学問や研究をしたいから」、大阪外国語大学で「将来の仕事に役立つ専門知識・技術を身につけたいから」、和歌山大学教員養成課程で「将来の仕事に役立つ専門知識・技術を身につけたいから」と「資格を取得したいから」、和歌山大学B課程で「将来の仕事に役立つ専門知識・技術を身につけたいから」であった。

これらの結果より、自分自身の向上と学生生活を楽しむこと、ならびに将来の就職を視野に入れながら、大阪大学人間科学部では高等学校までの教育で得られないような教養と高度な学問・研究を求めて、大阪外国語大学ではより専門的な語学力の習得を求めて、和歌山大学教員養成課程では教員になるための知識や技術・資格を求めて、大学進学を考えた様子がうかがえる。

1-3. 現在通っている大学の志望順位

現在通っている大学は第何番目の志望校であったかを調べた結果は、表1-3の通りである。

大阪大学人間科学部と大阪外国語大学では第1志望での入学者が多数であるが、和歌山大学教員養成課程と和歌山大学B課程では志望通りの入学でない者が多い。

表 1－3 現在通っている大学の志望順位

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B 課程
第 1 志望	75.3	82.1	28.0	19.3
第 2 志望	20.5	13.8	32.0	24.6
第 3 志望	2.7	2.8	11.2	15.8
第 4 志望以下	1.4	1.4	28.8	40.4

1－4. 現在通っている学部志望順位

現在通っている学部あるいは専攻は第何番目の志望学部あるいは専攻であったかを調べた結果は、表 1－4 の通りである。

表 1－4 現在通っている学部の志望順位

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B 課程
第 1 志望	89.7	73.8	61.6	73.2
第 2 志望	8.2	17.2	26.4	16.1
第 3 志望	0.7	4.1	5.6	3.6
第 4 志望以下	1.4	4.8	6.4	7.1

いずれも第 1 志望が多数を占める。和歌山大学教員養成課程と和歌山大学 B 課程においても、学部は志望通りということである。

従って、学部あるいは専攻の志望が先にあって、大学の志望はその後でなされることが推測される。

1－5. 現在通っている大学・学部志望した時期

現在通っている大学・学部志望したのはいつごろかを、学年で回答させた結果は表 1－5 の通りである。

高等学校に入学してから志望大学・学部を決めた者が多く、特に高等学校 2～3 年生の間に決めたのが約 7 割という結果になっている。なお、「高等学校 3 年生」には、「センター試験後」も含まれている。

「その他」は、ほとんどが「浪人中」であり、「他大学在学中」が若干含まれている。

1－6. 現在通っている大学・学部志望した理由

現在通っている大学・学部志望した理由について複数回答を求めた結果は、表 1－6 の通りである。選択肢の設定に不備があり、「その他」の回答が多かったため、記述内容を整理して集計し、表中に記載した。

各学部・課程とも、「私立大学に比べて授業料が安いから」と「自分の学力で合格できそうだから」という理由が 50%前後選択されている点は共通している。

学部・課程間で比較すると、大阪大学人間科学部では、「社会的評価が高いから」と「興味のある分野が学べるから」が多いが、「将来の就職を考えて」は少ない。大阪外国語大学では、「将来の就職を考えて」が多いが、「自宅から通学できるから」は少ない。和歌山大学教員養成課程では、「センター試験の結果を見て」「受験科目が都合が良いから」「将来の就職を考えて」「希望の職業につくための資格を得られるから」が多い。和歌山大学 B 課程では、「センター試験の結果を見て」が多い。

表 1－5 現在通っている大学・学部を志望した時期

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B 課程
小学校入学以前	0.7	0.0	0.0	0.0
小学校				
1 年生	0.0	0.0	0.0	1.8
2 年生	0.7	0.0	0.8	0.0
3 年生	0.0	0.0	0.0	0.0
4 年生	0.0	0.0	0.0	0.0
5 年生	0.0	0.0	1.6	0.0
6 年生	0.0	0.0	0.0	0.0
学年不明	0.0	0.0	0.0	0.0
中学校				
1 年生	0.7	0.0	0.0	3.5
2 年生	0.0	0.7	3.2	0.0
3 年生	0.7	2.8	0.8	1.8
学年不明	0.0	0.0	0.0	0.0
高等学校				
1 年生	8.9	20.7	6.4	1.8
2 年生	23.3	30.3	13.6	10.5
3 年生	47.3	41.4	63.2	61.4
学年不明	0.0	0.0	0.8	0.0
その他	17.8	4.1	9.6	19.3

また、選択した理由の中で順位をつけるよう求めた結果をみると、第 1 位にあげられた度数が最も多いのは、大阪大学人間科学部と大阪外国語大学で「興味のある分野が学べるから」、和歌山大学教員養成課程と和歌山大学 B 課程で「センター試験の結果を見て」であった。

これらの結果より、学力を基礎的な基準にした上で、大阪大学人間科学部では興味のある分野が学べることと自宅通学可能な環境を、大阪外国語大学では外国語の学習とそれを生かせる就職を、和歌山大学教員養成課程では教員の資格取得と自宅通学可能性を、和歌山大学 B 課程では自宅通学可能性を、それぞれ志望理由にしていることがうかがえる。

1－7. 大学・学部の志望に際し、卒業後の進路や将来の職業との関係を考慮したかどうか

現在通っている大学・学部を志望するにあたって、卒業後の進路や将来の職業との関係をどのくらい考慮したかを調べた結果は、表 1－7 の通りである。

「考慮した」と「考慮しなかった」に二分して考えると、大阪外国語大学と和歌山大学教員養成課程では「考慮した」という回答が 7 割以上（71.5％と 76.8％）、和歌山大学 B 課程では「考慮した」のは過半数（54.3％）であるのに対して、大阪大学人間科学部では「考慮しなかった」のが過半数（54.2％）を占める。

これは、前述の大学・学部の志望理由の結果と合致するものであり、大阪大学人間科学部と和歌山大学 B 課程では、学部や専攻分野の性格と将来の職業とが結びつきにくいようである。

表1-6 現在通っている大学・学部を志望した理由（複数回答）

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
親・きょうだいなど家族のすすめで	7.5	7.6	20.0	19.3
高校・予備校の先生のすすめで	17.1	15.9	16.8	22.8
私立大学に比べて授業料が安いから	44.5	51.0	48.0	59.6
自分の学力で合格できそうだから	50.0	37.2	55.2	52.6
センター試験の結果を見て	28.1	36.6	72.0	75.4
受験科目が都合が良いから	27.4	31.7	40.8	19.3
将来の就職を考えて	15.8	37.9	32.8	22.8
希望の職業につくための資格を得られるから	15.8	20.0	45.6	17.5
教官スタッフや設備が優れているから	19.9	2.8	0.8	0.0
社会的評価が高いから	34.2	13.1	0.8	1.8
この大学の伝統や雰囲気にあこがれて	11.6	15.2	0.8	1.8
自宅から通学できるから	32.9	11.0	39.2	40.4
親から離れて生活したいから	12.3	17.9	14.4	15.8
友人も志望したから	0.7	1.4	0.8	1.8
その他				
興味のある分野が学べるから	38.4	28.3	1.6	10.5
学部の名前が珍しくて魅力的だから	4.8	0.7	0.0	0.0
文系の他学部には魅力を感じなかったから	2.1	0.0	0.0	0.0
いろいろ学べそうだから・自由度が高そうだから	2.1	0.0	0.0	1.8
直感	1.4	0.0	1.6	1.8
外国語学部として優れていると思ったから	0.0	0.7	0.0	0.0
関西に来たかったから・地元だから	0.0	0.7	2.4	0.0
おもしろい人間がいると先輩から聞いていたので	0.7	0.0	0.0	0.0
その他	1.4	0.0	0.0	0.0

表1-7 大学・学部の志望に際し、卒業後の進路や将来の職業との関係を考慮したかどうか

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
非常によく考慮した	14.4	19.4	38.4	17.5
いくらかは考慮した	31.5	52.1	38.4	36.8
あまり考慮しなかった	38.4	19.4	16.8	35.1
全く考慮しなかった	15.8	7.6	6.4	8.8
どちらともいえない・わからない	0.0	1.4	0.0	1.8

2. 大学教育

2-1. 入学前のイメージや期待との比較、および勉学に対する意欲

入学前に抱いていた大学・学部へのイメージや期待と、現実の大学教育とを比較して、どのような感想をもっているか、そして現在、勉学に意欲を感じているか、について回答を求めた結果は表2-1の通りである。

表2-1 入学前のイメージや期待との比較、および勉学に対する意欲

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
期待通りであったので、勉学に強い意欲を感じている	13.7	2.8	3.2	1.8
期待通りであったが、勉学にはあまり意欲を感じていない	11.6	4.8	8.0	0.0
期待とは違っていたが、それなりに意欲と目的意識を持って勉学している	43.8	55.9	37.6	36.8
期待と違っていたので、勉学にはあまり意欲を感じていない	9.6	15.9	18.4	28.1
特に考えることもないが、必要な勉学は行っている	13.7	16.6	23.2	22.8
特に考えることもなく、勉学に打ち込んでいない	2.7	1.4	8.8	10.5
その他	4.8	2.8	0.8	0.0

各学部・課程とも、「期待とは違っていたが、それなりに意欲と目的意識を持って勉学している」者が最も多い。

2-2. 大学・学部に対する満足度

現在通っている大学・学部で勉強していることに満足しているか、それとも不満であるか、を調べた結果は表2-2の通りである。

表2-2 大学・学部に対する満足度

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
非常に満足している	16.4	6.2	4.8	5.3
やや満足している	60.3	45.5	36.8	26.3
やや不満である	15.8	26.9	36.8	42.1
非常に不満である	2.1	11.0	10.4	12.3
どちらともいえない	5.5	10.3	11.2	14.0

「満足している」と「不満である」に二分してその割合をみると、大阪大学人間科学部では76.7%と17.9%、大阪外国語大学では51.7%と37.9%で、「満足している」者の方が多いのに対して、和歌山大学教員養成課程では41.6%と47.2%、和歌山大学B課程では31.6%と54.4%になっており、「不満である」と考えている者の方が多いという結果になっている。

2-3. 現在の大学・学部で勉強していくことについての希望

今後1～2年の間に、現在の大学・学部で勉強していくことについて、どのような希望をもっているか、を調べた結果は表2-3の通りである。

表2-3 現在の大学・学部で勉強していくことについての希望

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
現在の大学・学部で勉強を続けたい	80.7	77.9	78.4	71.9
現在とは違う大学・短期大学に変わりたい	5.5	3.4	11.2	15.8
現在とは違う学部・学科・専攻に変わりたい	6.2	13.1	7.2	7.0
現在とは違う部（昼間部・夜間部・通信教育部） に変わりたい	0.0	0.0	0.8	0.0
現在の大学をやめて専修学校あるいは各種学校に 入りたい	0.7	2.1	2.4	1.8
勤めに出たい	4.8	2.8	0.0	3.5
家業に従事したい	0.7	0.0	0.0	0.0
家事手伝い	1.4	0.7	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0

各学部・課程とも、「現在の大学・学部で勉強を続けたい」という者が7～8割であるが、何らかの形で進路の変更を希望している者が少なからずいることがわかる。この進路変更希望が、不本意入学の結果なのか、あるいは期待と違って大学に失望した結果なのか、あるいは他の理由によるものなのか、進路変更を希望する理由を明らかにすることが今後の課題である。

2-4. 授業への出席率

大学の授業にどのくらい出席しているかを調べた結果は、表2-4の通りである。

表2-4 授業への出席率

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
よく出席している	37.0	48.3	70.4	36.8
まあまあ出席している	46.6	43.4	24.8	57.9
あまり出席していない	16.4	8.3	4.8	3.5
全く出席していない	0.0	0.0	0.0	1.8

「出席している」と「出席していない」に二分して考えると、「出席している」のは、大阪大学人間科学部で83.6%、大阪外国語大学で91.7%、和歌山大学教員養成課程で95.2%、和歌山大学B課程で94.7%となっており、いずれも出席率が高い。しかし、本調査は授業時間中に行ったので、授業出席率の高い学生が調査対象者になっていると考えられ、この結果は割り引いてみておく必要がある。

2-5. 授業に出席するかどうかを決める目安

大学の授業に出席するかどうかを、どのようなことを目安にして決めているかについて、複数回答を求めた結果は表2-5の通りである。

表2-5 授業に出席するかどうかを決める目安（複数回答）

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
内容に興味もてるかどうか	93.8	90.3	61.6	73.7
自分で勉強できる内容かどうか	14.4	15.2	10.4	12.3
出席をとるかどうか	58.9	62.1	64.0	68.4
出席しておくことが試験・レポートに必要なかどうか	51.4	54.5	57.6	57.9
友達に会えるかどうか	10.3	14.5	12.8	12.3
その他	10.3	4.1	12.0	7.0

各学部・課程とも、「内容に興味もてるかどうか」「出席をとるかどうか」「出席しておくことが試験・レポートに必要なかどうか」が出席の目安になっている。「おもしろい授業」と「単位を取るため」が出席の原動力になっているようである。

2-6. 受講態度

大学の授業をどのくらい真剣に受けているかを調べた結果は、表2-6の通りである。

表2-6 受講態度

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
非常に真剣だ	7.0	8.3	3.2	0.0
まあまあ真剣だ	57.3	59.4	41.6	37.0
結構いい加減だ	25.9	21.8	33.6	38.9
非常にいい加減だ	4.2	1.5	8.0	3.7
真剣ともいい加減ともいえない	5.6	9.0	13.6	20.4

「真剣だ」と「いい加減だ」に二分してその割合をみると、大阪大学人間科学部では64.3%と30.1%、大阪外国語大学では67.7%と23.3%、和歌山大学教員養成課程では44.8%と41.6%、和歌山大学B課程では37.0%と42.6%、となっている。授業に出席しているからといって、必ずしも真剣に受講しているわけではないことがわかる。

2-7. 必修科目以外の科目を履修する場合の科目選択基準

必修科目以外の科目を履修する場合、どのような基準で科目を選択するかについて、複数回答を求めた結果は表2-7の通りである。

表 2-7 必修科目以外の科目を履修する場合の科目選択基準（複数回答）

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B 課程
専攻に関連している科目を優先する	58.2	49.7	79.2	64.9
広い教養を身につけることを目的に選択する	27.4	24.1	16.0	15.8
自分が興味がある科目を選択する	95.2	95.2	68.8	86.0
単位が取りやすい科目を選択する	57.5	64.8	50.4	61.4
取りやすい時間帯の科目を選択する	58.2	70.3	31.2	35.1
友人が受講する科目を選択する	24.7	12.4	18.4	31.6
担当の先生をみて選択する	35.6	22.8	28.0	35.1
その他	0.7	1.4	1.6	0.0

大阪大学人間科学部と大阪外国語大学と和歌山大学B課程では、「自分が興味がある科目を選択する」が最も多く9割前後を占めるのに対して、和歌山大学教員養成課程では、「専攻に関連している科目を優先する」が最も多くなっている。教員養成課程の場合、教員免許状取得との関係があるのかもしれない。

2-8. 授業に対する感想

大学で受けている授業に関する14個の質問とその回答結果は、表2-8の通りである。

「① 自分の興味や知的関心に合う授業」「② 自分の将来に役立つと思える授業」「③ 授業を受けた結果、自分のあり方を振り返ったり考えるきっかけになったりした授業」「④ 学問や研究の世界のおもしろさに触れたと思えるような授業」「⑤ 教官の熱意が伝わってくるような授業」「⑥ 教官の学問に対する態度や人柄にひかれるような授業」など、学生のニーズにあった授業が行われていることがうかがえる。しかし、その反面、「⑦ 少人数できめ細かな指導のある授業」「⑧ 話し合いを大事にした授業」「⑨ レポートをまとめることを大事にした授業」「⑬ 試験やレポートについて事後指導を受けた授業」が「全くない」という回答が多いが目立つ。試験やレポートの事後指導については、7割前後が「必要」と回答している。また、「⑪ 教育者としての自覚を持ってほしいと思われる教官の授業」や「⑫ もう少し工夫して講義をしてほしいと思う授業」もある。「⑩ ビデオやスライド、図表その他の資料など、理解を助ける補助的手段の充実した授業」が大阪外国語大学でやや少ないのは、設備上の問題が関係していると思われる。

2-9. シラバスの活用のしかた

シラバス（授業計画・授業概要書）をどのくらい活用したかを調べた結果は、表2-9の通りである。

大阪大学人間科学部と大阪外国語大学では、「履修科目を選択する際、大いに活用したが、その後は活用していない」という回答が過半数である。和歌山大学教員養成課程と和歌山大学B課程では、「履修科目を選択する際、大いに活用し、その後も折にふれ活用している」と「履修科目を選択する際、大いに活用したが、その後は活用していない」とに分かれる。いずれにしても、シラバスを何らかの形で活用はするけれども、1年間を通して折にふれフルに活用するという学生は多くないようである。

表 2 - 8 授業に対する感想

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B 課程
① 自分の興味や知的関心に合う授業はありますか。				
たくさんある	17.8	4.1	4.8	3.5
いくつかある	68.5	63.4	58.4	59.6
1つか2つある	13.0	31.7	34.4	36.8
全くない	0.7	0.7	2.4	0.0
② 自分の将来に役立つと思える授業はありますか。				
たくさんある	8.2	3.5	5.6	5.3
いくつかある	54.8	46.5	63.2	54.4
1つか2つある	31.5	47.2	28.0	33.3
全くない	5.5	2.8	3.2	7.0
③ 授業を受けた結果、自分のあり方を振り返ったり考えるきっかけになったりした授業はありますか。				
たくさんある	6.8	0.7	4.0	0.0
いくつかある	44.5	26.2	36.8	28.1
1つか2つある	39.0	57.9	48.0	56.1
全くない	9.6	15.2	11.2	15.8
④ 学問や研究の世界のおもしろさに触れたと思えるような授業はありますか。				
たくさんある	8.2	2.8	2.4	0.0
いくつかある	60.3	37.2	36.0	29.8
1つか2つある	28.1	47.6	48.0	56.1
全くない	3.4	12.4	13.6	14.0
⑤ 教官の熱意が伝わってくるような授業はありますか。				
たくさんある	1.4	4.1	4.0	0.0
いくつかある	52.1	42.1	50.4	36.8
1つか2つある	43.8	49.7	38.4	59.6
全くない	2.7	4.1	7.2	3.5
⑥ 教官の学問に対する態度や人柄にひかれるような授業はありますか。				
たくさんある	2.7	1.4	2.4	1.8
いくつかある	47.3	41.4	35.2	35.1
1つか2つある	45.9	51.0	56.8	63.2
全くない	4.1	6.2	5.6	0.0
⑦ 少人数できめ細かな指導のある授業はありますか。				
たくさんある	2.1	7.6	4.8	3.5
いくつかある	18.5	36.6	29.8	36.8
1つか2つある	54.1	34.5	42.7	45.6
全くない	25.3	21.4	22.6	14.0

(表2-8 つづき)

⑧ 話し合いを大事にした授業はありますか。

たくさんある	2.1	2.1	1.6	5.3
いくつかある	12.3	12.4	24.8	40.4
1つか2つある	66.4	41.4	49.6	49.1
全くない	19.2	44.1	24.0	5.3

⑨ レポートをまとめることを大事にした授業はありますか。

たくさんある	13.7	3.4	9.7	8.8
いくつかある	28.8	14.5	34.7	52.6
1つか2つある	43.8	55.9	37.9	28.1
全くない	13.7	26.2	17.7	10.5

⑩ ビデオやスライド、図表その他の資料など、理解を助ける補助的手段の充実した授業はありますか。

たくさんある	7.5	1.4	4.0	8.8
いくつかある	47.9	17.9	34.4	43.9
1つか2つある	37.7	60.7	53.6	42.1
全くない	6.8	20.0	8.0	5.3

⑪ 教育者としての自覚を持ってほしいと思われる教官の授業はありますか。

たくさんある	13.7	18.6	12.8	17.5
いくつかある	34.9	33.8	33.6	31.6
1つか2つある	36.3	31.7	44.8	47.4
全くない	15.1	15.9	8.8	3.5

⑫ もう少し工夫して講義をしてほしいと思う授業はありますか。

たくさんある	30.1	39.3	29.6	43.9
いくつかある	43.2	40.0	48.8	38.6
1つか2つある	22.6	20.0	20.0	17.5
全くない	4.1	0.7	1.6	0.0

⑬ 試験やレポートについて事後指導を受けた授業はありますか。

たくさんある	0.0	0.7	0.8	0.0
いくつかある	4.8	6.9	6.4	7.0
1つか2つある	32.2	23.4	42.4	31.6
全くない	63.0	69.0	50.4	61.4

⑭ あなたは試験やレポートについて事後指導が必要だと思いますか。

ぜひ必要	23.3	22.8	17.6	15.8
どちらかといえば必要	53.4	54.5	51.2	47.4
どちらかといえば不要	6.8	9.7	10.4	8.8
不要	6.2	2.8	4.8	5.3
何ともいえない	10.3	10.3	16.0	22.8

表 2 - 9 シラバスの活用のしかた

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B 課程
履修科目を選択する際、大いに活用し、 その後も折にふれ活用している	17.8	18.6	29.6	28.1
履修科目を選択する際、大いに活用したが、 その後は活用していない	52.7	55.2	30.4	40.4
履修科目を選択する際、少し活用し、 その後も折にふれ活用している	9.6	4.1	15.2	7.0
履修科目を選択する際、少し活用したが、 その後は活用していない	17.8	19.3	21.6	17.5
ほとんど活用していない	1.4	2.8	3.2	7.0
その他	0.7	0.0	0.0	0.0

3. 卒業後の進路設計・将来の職業

3 - 1. 教員免許状の取得希望

教員免許状の取得を目指しているかどうかを調べた結果は、表 3 - 1 の通りである。

表 3 - 1 教員免許状の取得希望

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B 課程
必ず取得する	13.7	8.3	100.0	33.3
できれば取得したい	18.5	12.4	0.0	24.6
取得することは考えていない	67.8	79.3	0.0	42.1

「必ず取得する」と「できれば取得したい」を合わせると、大阪大学人間科学部では32.2%、大阪外国語大学では20.7%で、取得しない方が多いのに対して、和歌山大学B課程では57.9%と取得希望者の方が上回っている。和歌山大学B課程の場合、教員免許状の取得が卒業要件でなくても、教育学部所属ということが教員免許状取得希望につながっているようである。和歌山大学教員養成課程では教員免許状取得が卒業要件であるので、全員が取得予定なのはいうまでもない。

「必ず取得する」と「できれば取得したい」に回答した者については、教員免許状の種類を尋ねた。取得希望の内訳をみるために、教員免許状取得希望者のうち何%がそれを希望しているかを算出した。結果は次の通りである。

大阪大学人間科学部では、57.4%が中学校教員免許状取得希望、85.1%が高等学校教員免許状取得希望であり、1種類の取得だけを希望しているのが48.9%、2種類の取得希望が42.6%、3種類の取得希望が4.3%、4種類の取得希望が4.3%である。大阪外国語大学では、40.0%が中学校教員免許状取得希望、96.7%が高等学校教員免許状取得希望であり、1種類の取得だけを希望しているのが60.0%、2種類の取得希望が40.0%、3種類以上の取得希望者はいない。和歌山大学教員養成課程では、92.0%が小学校教員免許状取得希望、67.5%が中学校教員免許状取得希望、55.3%が高等学校教員免許状取得希望、15.4%が養護学校教員免許状取得希望であり、1種類の取得だけを希望しているのが23.6%、2種類の取得希望が26.0%、3種類の取得希望が45.5%、4種類の取得希望が4.9%である。和歌山

大学B課程では、78.8%が中学校教員免許状取得希望、75.8%が高等学校教員免許状取得希望であり、1種類の取得だけを希望しているのが45.5%、2種類の取得希望が54.5%、3種類以上の取得希望者はいない。以上より、大阪大学人間科学部と大阪外国語大学と和歌山大学B課程における教員免許状取得希望者は、中学校と高等学校の免許状取得を目指し、和歌山大学教員養成課程では、必修の主免許状以外に副免許状の取得も目指していることが推測される。

3-2. 卒業後の進路希望

大学卒業後、どのような進路を目指そうとしているかを調べた結果は、表3-2の通りである。

表3-2 卒業後の進路希望

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
民間企業に就職	26.0	46.2	9.6	28.1
公務員	14.4	9.0	12.0	17.5
教員	3.4	2.8	62.4	17.5
自営業	0.0	0.7	0.0	0.0
大学院進学	26.7	8.3	3.2	10.5
その他	4.1	8.3	4.0	1.8
わからない	19.9	17.9	4.8	17.5
迷っている	5.5	6.9	4.0	7.0

大阪大学人間科学部では、「民間企業に就職」と「大学院進学」がほぼ同数で約¼ずつである。大阪外国語大学では「民間企業に就職」が半数近くを占める。和歌山大学教員養成課程では「教員」が6割強と多い。和歌山大学B課程では「民間企業に就職」が3割弱で、全体にばらついている。

「わからない」・「迷っている」者は、和歌山大学教員養成課程では比較的少ないが、大阪大学人間科学部と大阪外国語大学と和歌山大学B課程では約¼に達している。

これらの結果より、教員養成という性格がはっきりしている和歌山大学教員養成課程と、学部や専攻分野の性格が職業と直接結びつきにくい大阪大学人間科学部・大阪外国語大学・和歌山大学B課程とでは、卒業後の進路希望の明確さに違いがあることがわかる。

3-3. 卒業後の進路を希望した時期

3-2. のような進路を希望したのはいつごろかを、学年で回答させた結果は表3-3の通りである。

大阪大学人間科学部と大阪外国語大学と和歌山大学B課程では「大学入学後」が多いのに対して、和歌山大学教員養成課程では「高等学校在学中」と「大学入学後」がほぼ同数で、比較的早い時期に大学卒業後の進路希望を固めていることがうかがえる。

やはり教員養成課程では教員という将来の職業希望が明確な学生が多いことが、この結果にも反映しているといえよう。その他の学部・課程の場合は、将来の職業を選択してからそれに必要な学部を選択するというより、まず大学に入ることが先でそれから就ける職業を選択するという進路選択が行われているのであろう。

表 3 - 3 卒業後の進路を希望した時期

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B 課程
小学校入学以前	2.2	0.8	1.6	1.9
小学校				
1 年生	0.7	0.0	0.0	0.0
2 年生	0.7	0.0	1.6	0.0
3 年生	0.0	0.0	2.4	0.0
4 年生	0.0	0.8	2.4	0.0
5 年生	0.0	0.0	0.8	1.9
6 年生	0.7	0.0	2.4	0.0
学年不明	0.0	0.0	0.0	0.0
中学校				
1 年生	0.0	1.5	0.8	1.9
2 年生	3.7	3.8	5.6	3.8
3 年生	0.7	3.8	6.4	3.8
学年不明	0.0	0.0	0.0	0.0
高等学校				
1 年生	2.2	3.8	8.8	7.7
2 年生	9.6	13.8	11.2	11.5
3 年生	10.3	14.6	16.8	17.3
学年不明	0.0	0.8	0.8	0.0
大学入学後	57.4	50.0	36.0	42.3
その他	11.8	6.2	2.4	7.7

3 - 4. 卒業後の進路希望に対する大学教育の影響

大学卒業後の進路を決めるにあたって、大学での授業や勉強の影響があったかどうかを調べた結果は、表 3 - 4 の通りである。

表 3 - 4 卒業後の進路希望に対する大学教育の影響

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B 課程
非常に影響があった	15.8	14.6	18.4	7.0
多少影響があった	36.3	36.8	34.4	22.8
あまり影響はない	23.3	29.9	31.2	36.8
全く影響はない	14.4	7.6	9.6	15.8
何ともいえない	10.3	11.1	6.4	17.5

「影響があった」と「影響はない」に二分して考えると、大阪大学人間科学部と大阪外国語大学と和歌山大学教員養成課程では「影響があった」という回答の方が多く、約半数であるのに対して、和歌山大学B課程では逆に「影響はない」の方が多くて約半数を占める。

3-3. の結果と合わせて考察すると、大阪大学人間科学部と大阪外国語大学では、大学入学後に大学での授業や勉強の影響を受けて卒業後の進路を探索し、和歌山大学教員養成課程では、あらかじめ持っていた教員志望が大学での授業や勉強を通してより明確になり、和歌山大学B課程では、大学入学後に大学での授業や勉強とは関係なしに卒業後の進路を探索している、ということになるだろう。

3-5. 卒業後の進路との関係からみた大学教育観

卒業後の進路との関係で、現在大学で受けている教育をどのように考えているかについて、複数回答を求めた結果は表3-5の通りである。

表3-5 卒業後の進路との関係からみた大学教育観（複数回答）

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
教育内容が将来役に立つと考えている	28.1	19.3	30.4	21.1
直接役に立つということはないが、 広い意味で有益である	69.9	67.6	61.6	68.4
就職に有利である	4.1	16.6	2.4	1.8
どちらかという役に立たず、無益である	11.0	16.6	11.2	17.5
全く役に立たず、無駄だと思う	0.0	2.8	0.0	0.0
就職に不利である	0.0	3.4	2.4	1.8
その他	3.4	2.1	3.2	1.8

各学部・課程とも、「直接役に立つということはないが、広い意味で有益である」という回答が6～7割で最も多く、「教育内容が将来役に立つと考えている」が2～3割でこれに次ぐ。

どのような点が有益・役に立つかについて自由記述を求めた結果を簡単にまとめると、大阪大学人間科学部と和歌山大学B課程では「知識や教養が身につく、視野が広がる」、大阪外国語大学では「外国の言語や文化を学習することが職業生活に生かせる」、和歌山大学教員養成課程では「教師になった時に教育法や生徒との関わり方などが実践に役立つ」「教師にはならないけれども教養として役立つ、人間関係にプラスになる」、などの意見が多かった。

これらの結果より、大学生は大学教育を、職業のための直接の準備教育としてよりも、知識や教養を身につけ、将来の生き方に役立てようとする方向で捉えていることが推測される。

3-6. 職業観

3-6-1. 将来の職業を決める時、重視する事柄

自分の将来の職業を決める時、どのような事柄を重視するかについて、複数回答を求めた結果は表3-6-1の通りである。

表3-6-1 将来の職業を決める時、重視する事柄（複数回答）

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
高い収入が得られること	27.4	28.3	27.2	26.3
自分の能力や適性が生かせること	88.4	89.0	66.4	77.2
地位や名声が得られること	11.6	8.3	5.6	10.5
休日や休暇が多く、自分の自由になる時間が もてること	52.1	32.4	28.8	36.8
安定していて失業のおそれがないこと	41.1	44.1	60.0	52.6
世のため人のために役立つこと	32.9	20.7	25.6	19.3
自分の興味や好みにあっていること	89.7	87.6	76.0	80.7
自分の性格にあっていること	84.9	82.1	72.8	75.4
将来発展する可能性があること	26.0	25.5	10.4	28.1
長く働けること	32.9	39.3	37.6	43.9
家族の希望にあっていること	8.9	4.8	7.2	5.3
地元で就職できること	10.3	12.4	16.0	10.5
いろいろな人と知り合えること	33.6	31.7	20.8	31.6
その他	2.1	0.7	3.2	0.0

各学部・課程とも、「自分の能力や適性が生かせること」「自分の興味や好みにあっていること」「自分の性格にあっていること」が多く選択されている。

また、選択した事柄の中で順位をつけるよう求めた結果をみると、第1位にあげられた度数が最も多いのは、大阪大学人間科学部で「自分の能力や適性が生かせること」と「自分の興味や好みにあっていること」、大阪外国語大学と和歌山大学教員養成課程と和歌山大学B課程で「自分の興味や好みにあっていること」であった。また、上位3位までの度数をみると、各学部・課程とも、「自分の能力や適性が生かせること」「自分の興味や好みにあっていること」「自分の性格にあっていること」の3つが特に強く重視されている。

これらの結果より、職業選択においては、能力・適性、興味、性格の3点が共通して重視されるといえる。

3-6-2. 働く目的

表3-6-2 働く目的

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
収入を得ること	44.1	43.4	49.6	40.4
社会人としての義務を果たすこと	6.9	5.5	11.2	14.0
仕事を通じて自分をいかすこと	45.5	46.2	36.0	31.6
その他	3.4	4.8	3.2	14.0

人が働くのはどのような目的かを調べた結果は、表3-6-2の通りである。

各学部・課程とも、「収入を得ること」と「仕事を通じて自分をいかすこと」が多く選択されており、「社会人としての義務を果たすこと」は少ない。職業に対して、収入を得ることと自己実現の両方を求めていることがうかがえる。

3-7. 職業意識

3-7-1. 職業レディネス

職業レディネス測定に用いられた全30項目について尺度構成の手続きを行った結果、若林他（1983）と同様に、職業レディネス尺度は21項目から成る総合的な単一尺度として構成されることが明らかとなった。この21項目に基づく信頼性係数 α は.854であった。最終的な職業レディネス尺度は、『『限定された』職業領域に対して強い『選択の関心』をもち、それに対する選択過程を『現実的』『主体的』に進めている状態、として再構成された』（若林他，1983）ことになる（得点範囲は0～126）。

学部・課程別に、職業レディネス尺度得点の平均値を算出した結果は、表3-7の通りである。

学部・課程間で職業レディネス尺度得点の平均値の比較を行ったが、有意差はみられなかった。

しかし、各学部・課程とも、職業レディネス尺度得点の midpoint（63点）を上回っていることから、学部の性格に関わらず、職業レディネスが平均的に形成されていると考えられる。学部の性格がどうであろうと、学校生活の最終段階にあって1～2年後に職業選択を迫られる立場に立っているということが影響しているであろう。

3-7-2. 職業志向

職業志向測定に用いられた全30項目について、因子分析により尺度構成の手続きを行った。その結果、若林他（1983）と同様に、「職務挑戦志向」「労働条件志向」「人間関係志向」という3つの因子が抽出された。この3因子に基づいて下位尺度を構成することになるが、それぞれ14項目、7項目、5項目から成っており、信頼性係数 α は順に.927、.846、.827であった（得点範囲は14～70、7～35、5～25）。

学部・課程別に、職務挑戦志向、労働条件志向、人間関係志向の各下位尺度得点の平均値を算出した結果は、表3-7の通りである。

学部・課程間で各下位尺度得点の平均値の比較を行ったが、有意差はみられなかった。

各学部・課程とも、いずれの志向得点についても midpoint 付近に位置していることから、「普通以上にあってほしい」という程度の志向性をもっていることがうかがえる。

表3-7 職業意識

	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	() 内はSD 和歌山大学 B課程
職業レディネス	80.3 (15.4)	80.1 (13.9)	83.1 (15.5)	79.1 (16.2)
職業志向				
職務挑戦志向	44.9 (11.5)	44.9 (11.2)	44.3 (10.8)	42.5 (11.6)
労働条件志向	22.9 (5.8)	23.5 (6.4)	24.0 (6.2)	23.5 (6.4)
人間関係志向	18.9 (4.1)	18.8 (4.1)	19.5 (3.9)	19.3 (4.9)

4. 大学・学歴に対する考え方

4-1. 大学卒業後の学習意欲

大学を卒業してからも何かを学ぶ機会を持ちたいかどうかを調べた結果は、表4-1の通りである。

表4-1 大学卒業後の学習意欲

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
自分の方から積極的に何かを学ぶ機会を持ちたい	52.7	50.7	39.2	43.9
何かを学ぶ機会があれば参加したい	46.6	45.1	60.0	54.4
何かを学ぶ機会があっても参加したいとは思わない	0.7	2.1	0.8	1.8
その他	0.0	2.1	0.0	0.0

各学部・課程とも、「自分の方から積極的に何かを学ぶ機会を持ちたい」と「何かを学ぶ機会があれば参加したい」という学習意欲を持っている者がほとんどであるが、大阪大学人間科学部と大阪外国語大学で積極的な意欲を持っている者が多い。

4-2. 社会で成功する要因

社会に出て成功するのに重要な要因について、2つを選択する方式で質問した結果は、表4-2の通りである。

表4-2 社会で成功する要因（2つ選択）

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
身分・家柄・親の地位	0.7	2.2	2.5	7.5
個人の才能	67.1	65.2	58.2	62.3
個人の努力	64.3	68.9	69.7	66.0
学歴	4.3	8.1	9.0	7.5
運やチャンス	52.9	45.9	50.0	41.5
その他	5.0	3.0	0.0	5.7

各学部・課程とも、「個人の才能」と「個人の努力」をあげる者が6～7割と多く、「運やチャンス」が4～5割でこれに次ぐ。「学歴」は1割に満たず、重要な要因とはみなされていない。

4-3. 大学卒業者が評価される要素

大学を卒業した人は主にどのような点から評価されると思うかを調べた結果は、表4-3の通りである。

表4-3 大学卒業者が評価される要素

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
一流大学を出ているかどうかということ	37.9	26.1	37.5	43.6
どの大学であれ大学を出ていること	7.1	4.3	7.5	5.5
大学でどのような成績を修めたかということ	2.1	4.3	3.3	0.0
大学でどのような専門分野を学んだかということ	39.3	54.3	40.8	30.9
わからない	6.4	5.8	10.0	14.5
その他	7.1	5.1	0.8	5.5

「一流大学を出ているかどうかということ」と「大学でどのような専門分野を学んだかということ」とに分かれるが、大阪外国語大学では後者の方に、和歌山大学B課程では前者の方に、やや重きが置かれている。

「一流大学を出ているかどうかということ」が多いのは、日本は単なる学歴社会というより学校歴社会であるといわれることを反映している。また、「大学でどのような成績を修めたかということ」がほとんど問題にされないのは、日本の大学は入るのは難しいが出るのは易しいという現実を反映しており、やはり成績より大学名の方が重視されるということであろう。

なお、大阪外国語大学で「大学でどのような専門分野を学んだかということ」をあげる者が多いのは、大学名よりも、語学力という武器を身につけることの方に価値が置かれるからかもしれない。

5. 人生観

5-1. 人の暮らし方

人の暮らし方で重視するものを調べた結果は、表5-1の通りである。

表5-1 人の暮らし方

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
経済的に豊かになる	4.1	5.6	8.8	3.6
社会的な地位を得る	4.1	2.8	0.8	0.0
自分の好きなように暮らす	63.7	55.9	40.0	57.1
社会のために尽くす	2.7	2.8	2.4	0.0
家庭生活を大切にする	19.9	28.7	41.6	35.7
その他	5.5	4.2	6.4	3.6

大阪大学人間科学部と大阪外国語大学と和歌山大学B課程では、「自分の好きなように暮らす」をあげる者が6割前後と多く、「家庭生活を大切にする」がこれに次ぐ。和歌山大学教員養成課程では、「自分の好きなように暮らす」と「家庭生活を大切にする」が4割ずつではほぼ同数である。

「経済的に豊かになる」ことや「社会的な地位を得る」ことや「社会のために尽くす」ことよりも、自由な暮らし方を求めているということであろう。

5－2. 充実感を感じる時

どんな時に充実していると感じるかについて、複数回答を求めた結果は表5－2の通りである。

表5－2 充実感を感じる時（複数回答）

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
社会のために役立つことをしているとき	21.9	19.3	20.0	7.0
勉強に打ち込んでいるとき	50.7	42.1	35.2	22.8
仕事（アルバイト）に打ち込んでいるとき	28.1	25.5	24.0	26.3
クラブ・サークル活動に打ち込んでいるとき	48.6	37.2	38.4	40.4
スポーツや趣味に打ち込んでいるとき	54.8	55.9	48.8	59.6
家族といるとき	18.5	31.7	13.6	17.5
友人や仲間といるとき	68.5	72.4	60.8	75.4
他人にわずらわされず、一人でいるとき	26.7	26.2	16.8	21.1
その他	3.4	3.4	8.0	5.3

各学部・課程とも、「友人や仲間といるとき」が最も多く、「スポーツや趣味に打ち込んでいるとき」がこれに次ぐ。

「勉強に打ち込んでいるとき」をあげる者も多数いるのは喜ばしいことである。また、社会への意識が希薄であるといわれる現代青年において、「社会のために役立つことをしているとき」をあげる者が少なくないのは、望ましい傾向といえるであろう。

5－3. 悩みや心配ごと

現在悩みや心配ごとを持っているかどうか、持っている場合にはその内容について、複数回答を求めた結果は表5－3の通りである。

各学部・課程とも、「就職のこと」が最も多く、卒業後の進路が重大な悩み・心配ごとであることがわかる。「勉強のこと」「お金のこと」「性格のこと」「異性との交際のこと」など、大学生・青年期であることに関係した悩み・心配ごとがこれに次ぐ。

しかし、「政治や社会のこと」をあげる者は少なく、社会への関心の低さがあらわれている。

「悩みや心配ごとはない」という者はごくわずかである。

5－4. 悩みや心配ごとの相談相手

悩みや心配ごとがあった場合、誰に相談するかについて、複数回答を求めた結果は表5－4の通りである。

各学部・課程とも、「同性の友人」が8～9割と最も多く、「母」と「異性の友人（恋人を含む）」が4割前後でこれに次ぐ。青年期後期にあたる大学生の場合、自分と同世代の友人を相談相手として選んでいることがわかる。

表5－3 悩みや心配ごと（複数回答）

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
勉強のこと	45.9	53.1	36.0	38.6
進学のこと	39.7	28.3	21.6	22.8
就職のこと	63.0	64.8	65.6	52.6
仕事（アルバイト）のこと	24.7	22.1	19.2	31.6
家族のこと	18.5	19.3	16.0	10.5
友人や仲間のこと	28.1	33.8	25.6	22.8
異性との交際のこと	39.0	35.2	30.4	33.3
クラブ・サークルのこと	24.0	20.7	20.8	19.3
お金のこと	40.4	37.2	44.0	38.6
政治や社会のこと	4.8	9.7	5.6	1.8
性格のこと	45.9	35.9	44.0	33.3
健康のこと	17.8	19.3	23.2	19.3
容姿のこと	24.7	24.8	23.2	31.6
その他	1.4	0.7	1.6	1.8
悩みや心配ごとはない	2.7	2.1	1.6	3.5

表5－4 悩みや心配ごとの相談相手（複数回答）

	(%)			
	大阪大学 人間科学部	大阪外国語大学 外国語学部	和歌山大学 教員養成課程	和歌山大学 B課程
父	13.0	5.5	18.4	8.8
母	42.5	40.0	36.0	35.1
兄弟姉妹	21.9	17.2	22.4	12.3
先生	1.4	2.8	3.2	1.8
同性の友人	80.8	90.3	86.4	91.2
異性の友人（恋人を含む）	45.2	39.3	37.6	29.8
学校やクラブの先輩・後輩	11.6	16.6	20.0	10.5
電話相談やカウンセラーなど	1.4	0.7	0.0	0.0
その他	1.4	2.1	1.6	1.8
だれにも相談しない	14.4	9.0	19.2	10.5

おわりに

本調査は、職業との関係が明確になりにくい学部 zu 所属する学生が、自分の進路や大学教育・大学生活についてどのような意識を持っているのかを広く調べることを目的にして行ったものである。

しかし、本調査で対象になった学部は、そのような性格を持つ学部の中のごく一部であり、本調査の結果だけで一般傾向を論じられるわけではないことはいうまでもない。大阪大学は総合大学、大阪外国語大学は単科大学、和歌山大学は2つの学部から構成される大学（1996年度入学者からは3つの学部）というような、大学の性格の違いも加味しなければならない。また、和歌山大学B課程はサンプル数が少ないため、他との比較に問題がないわけではない。さらに、本報告では、それぞれの質問項目の回答結果を単純集計して基礎資料を提示するだけにとどまった。これらの問題点をふまえて、今後は、今回の探索的分析で得られた基礎資料をもとにして、進路意識と大学教育との相互関連をさらに明確にできるような、詳細な調査と分析を行うことが必要である。

また、本調査の結果では、和歌山大学教員養成課程で教員志望者が多かったが、教員採用状況をみると、現実 is 厳しい。そのようなジレンマの中で“教員養成”教育をどのように行うべきか、教員希望がかなえられなかった場合の指導はどのようにすべきか、などについて考えることも今後の課題である。

高等教育の大衆化が進む中で、社会情勢の変化と学生のニーズに対応しながら大学教育の個性化を推進していくことが望まれる。

引用文献

- 藤田利光・大倉秀介・植田千晶・桶矢成智 1994 文化社会課程・生産科学課程アンケート報告 和歌山大学教育学部教育実践研究指導センター紀要, 4, 9-29.
- 梶田勲一 1995 大学生は講義・演習等の何に満足し、何が不満なのか 京都大学高等教育研究, 1, 54-58.
- 梶田勲一 1996 講義・演習等に関する大学生のニーズ 京都大学高等教育研究, 2, 122-126.
- 文部省初等中等教育局 1989 昭和63年度中学校及び高等学校における進路指導に関する総合的実態調査結果報告
- 総務庁青少年対策本部 1993 世界の青年との比較からみた日本の青年——第5回世界青年意識調査報告書——
- 梅田修・山本健慈・米田篤・松浪信五 1990 教育学部入学者（1990年度）の実態調査について 教育研究所報（和歌山大学教育学部）, 14, 231-242.
- 若林満・後藤宗理・鹿内啓子 1983 職業レディネスと職業選択の構造——保育系、看護系、人文系女子短大生における自己概念と職業意識との関連—— 名古屋大学教育学部紀要——教育心理学科——, 30, 63-98.

謝辞

本調査の実施にあたり御協力を賜りました大阪大学人間科学部の先生方、和歌山大学教育学部の先生方、ならびに回答して下さった学生の皆様に、厚く御礼申し上げます。